

2007年8月6日

2008年3月期第1四半期財務・業績の概況

東レ株式会社
代表取締役副社長 吉川尤雄

- ・2008年3月期第1四半期業績の概要 (P3)
- ・事業セグメント別売上高・営業利益 (P4-12)
- ・営業利益増減要因分析 (P13)
- ・2008年3月期中間期連結業績見通し (P14)
- ・事業セグメント別売上高・営業利益中間期見通し (P15)
- ・原料価格の見通し (P16)
- ＜参考資料＞最近のトピックス (P17-22)

2008年3月期第1四半期業績の概要

単位: 億円

	07年3月期 第1四半期	08年3月期 第1四半期	増減	ご参考: 減価償却制度変更前	
				08年3月期 第1四半期	増減
売上高	3,581	3,858	+277 (+7.7%)	3,858	+277 (+7.7%)
売上原価	2,860	3,081	+220 (+7.7%)	3,067	+207 (+7.2%)
売上総利益	720	777	+57 (+7.9%)	790	+70 (+9.7%)
(売上高総利益率)	20.1%	20.1%	+0.0 ポイント	20.5%	+0.4 ポイント
販売費及び 一般管理費	535	582	+48 (+8.9%)	582	+48 (+8.9%)
(売上高販管費比率)	14.9%	15.1%	+0.2 ポイント	15.1%	+0.2 ポイント
営業利益	186	195	+9 (+5.1%)	208	+23 (+12.1%)
(売上高営業利益率)	5.2%	5.1%	-0.1 ポイント	5.4%	+0.2 ポイント
営業外収支	0	8	-7	7	-7
経常利益	185	188	+2 (+1.2%)	201	+16 (+8.5%)
特別損益	10	5	-5	5	-5
税前利益	195	193	-3 (-1.4%)	206	+11 (+5.5%)
純利益	117	102	-15 (-12.7%)	110	-7 (-5.8%)

為替レート

< 円 / US\$ >

(07/3 1Q) (08/3 1Q)

期中平均 : 114.5 120.8

期末 : 115.2 123.3

< 円 / ユーロ >

(07/3 1Q) (08/3 1Q)

期中平均 : 143.8 162.7

期末 : 146.0 165.6

原油価格

< US\$ / バレル > (DUBAI FOB)

(07/3 1Q) (08/3 1Q)

期中平均 : 64.8 64.8

(注) 3月期決算会社は4～6月の業績, 12月期決算会社は1～3月の業績を連結

	07年3月末	07年6月末	増減
資産合計	16,744	16,974	+229
負債合計	10,248	10,404	+157
純資産合計	6,497	6,569	+73
有利子負債残高	5,369	5,791	+422

中間期営業利益見通しに対する第1四半期進捗率

	07年3月期	08年3月期
第1四半期営業利益	186	195
中間期営業利益 07年3月期は実績 08年3月期は見通し	429	440
第1四半期進捗率	43.3%	44.4%

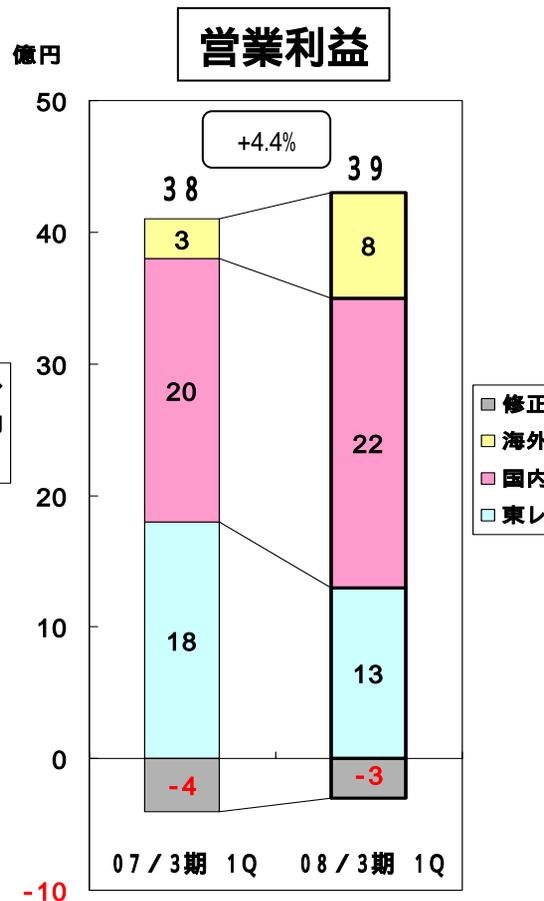
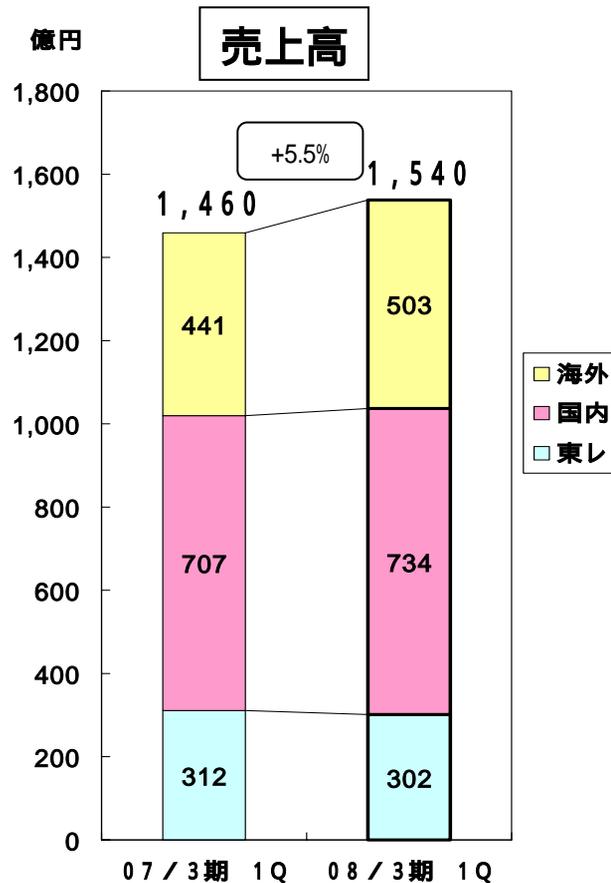
(注) 08年3月期中間期見通しは、07年5月時点の見通し

事業セグメント別売上高・営業利益

単位：億円

	売上高			営業利益			ご参考：減価償却制度変更前 営業利益		
	07年3月期 第1四半期	08年3月期 第1四半期	増減	07年3月期 第1四半期	08年3月期 第1四半期	増減	07年3月期 第1四半期	08年3月期 第1四半期	増減
繊維	1,460	1,540	+80 (+5.5%)	38	39	+2 (+4.4%)	38	44	+7 (+17.9%)
プラスチック・ケミカル	908	981	+73 (+8.0%)	36	42	+6 (+16.0%)	36	45	+9 (+25.5%)
情報通信材料・機器	646	664	+18 (+2.8%)	68	61	-6 (-9.2%)	68	64	-4 (-5.2%)
炭素繊維複合材料	146	193	+47 (+32.4%)	44	38	-6 (-14.6%)	44	39	-5 (-12.4%)
環境・エンジニアリング	273	329	+57 (+20.7%)	6	11	+17 (-)	6	11	+17 (-)
ライフサイエンスその他	149	152	+3 (+1.8%)	6	9	+3 (+55.5%)	6	9	+4 (+69.2%)
(内医薬・医療材)	92	103	+11 (+11.6%)	0	1	+2 (-)	0	2	+2 (-)
計	3,581	3,858	+277 (+7.7%)	185	200	+15 (+8.0%)	185	213	+28 (+15.1%)
消去又は全社				1	4	-5	1	4	-5
連結	3,581	3,858	+277 (+7.7%)	186	195	+9 (+5.1%)	186	208	+23 (+12.1%)

事業セグメント別業績(繊維)



特記事項

東レ

産業用途の一部商権を子会社に移管したこと、およびプラント技術輸出の減少等により、減収。利益面では、減価償却制度変更の影響による固定費増等により、減益。

国内子会社

商事子会社のテキスタイル輸出が好調に推移し、増収増益。

海外子会社

中国、韓国、イタリアの各子会社は堅調に推移し、増収増益。東南アジアでは、インドネシア子会社の燃料転換が順調に立ち上がったものの、現地通貨高の影響により、東南アジア全体では減益、海外全体では増収増益。

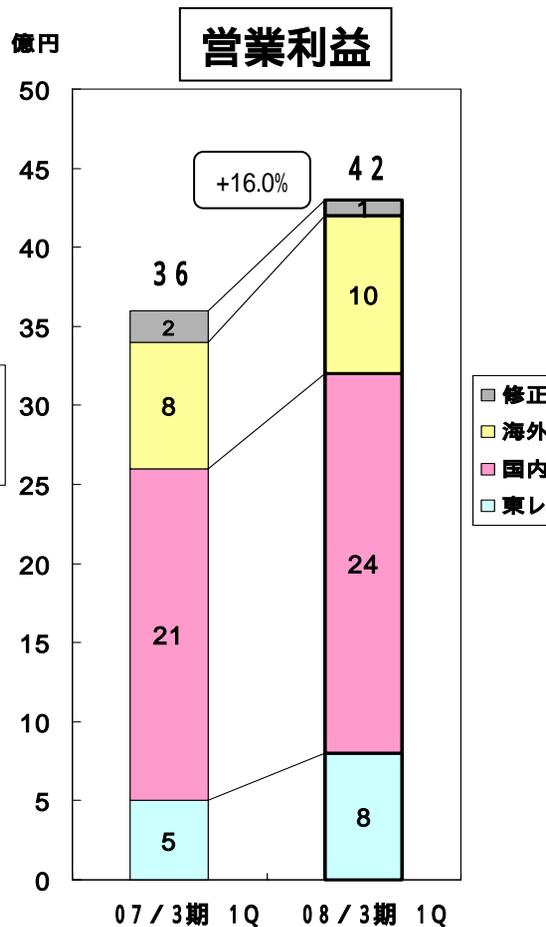
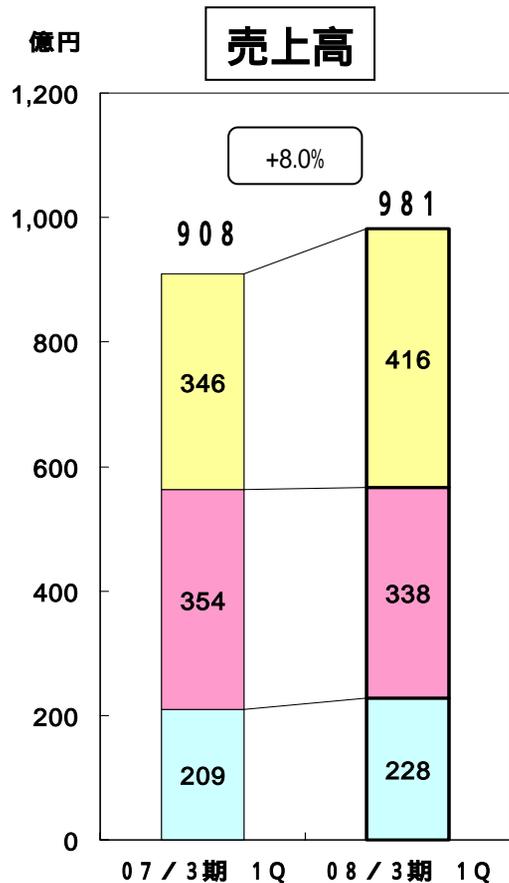
< 主要関係会社 >

国内：東レインターナショナル、一村産業、蝶理 他

アジア：PENFABRIC(マレーシア)、LUCKYTEX(タイ)、ITS(インドネシア)、TFNL(中国) 他

欧米：ALCANTARA(イタリア) 他

事業セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)



特記事項

東レ

樹脂事業が、自動車用途・家電用途を中心に堅調に推移し、フィルム事業は、ハイブリッドカー向けコンデンサー用途をはじめとした工業材料用途が好調に推移。ケミカル事業もファインケミカルが好調に推移し、全体として増収増益。

国内子会社

ケミカル子会社、フィルム加工子会社等が減収となるも、利益面では、全般に堅調に推移し、国内全体では、減収ながら増益。

海外子会社

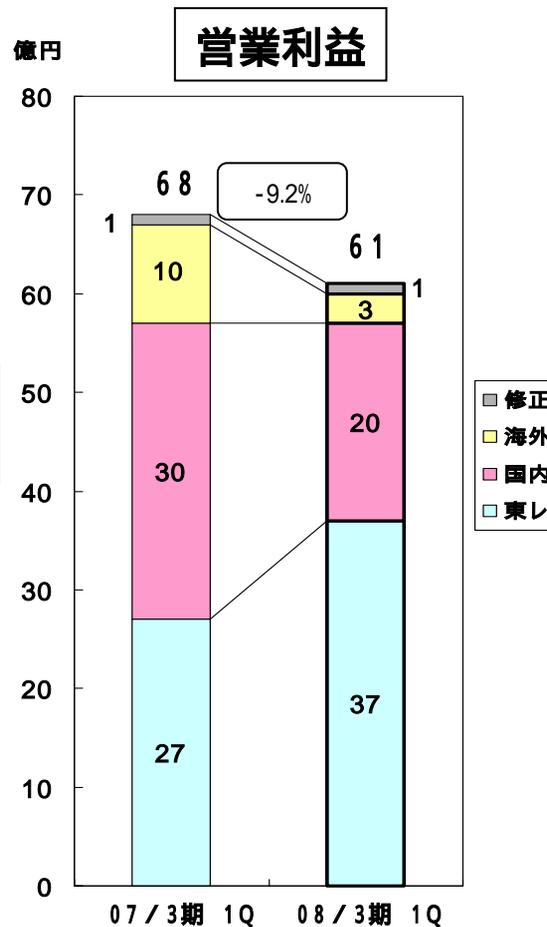
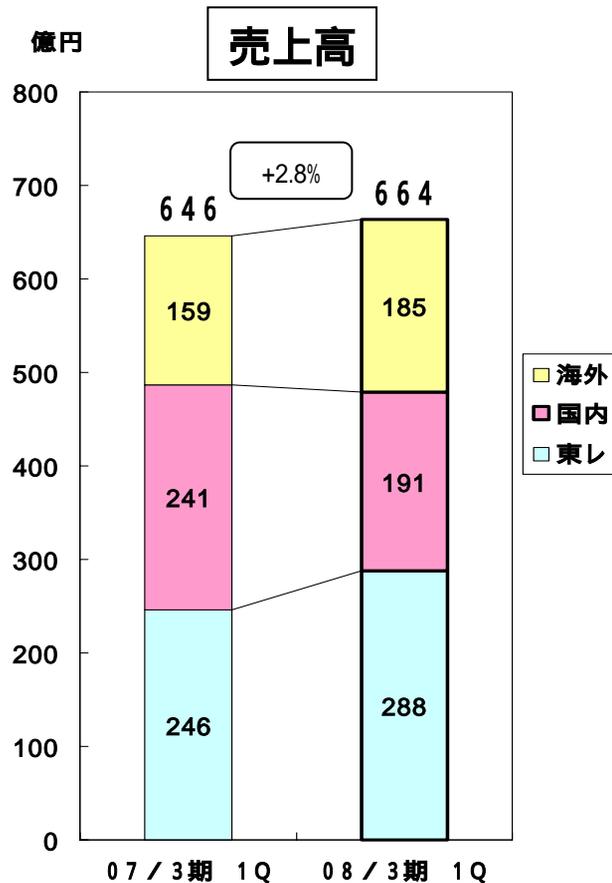
韓国フィルム子会社の値上げの進展に加え、米国フィルム子会社の高付加価値品拡販もあり、海外全体で増収増益。

< 主要関係会社 >

国内： 東レフィルム加工、東レ・ファインケミカル、曾田香料、蝶理 他

海外： TPA(アメリカ)、TPM(マレーシア)、TPEu(フランス)、TSI(韓国) 他

事業セグメント別業績(情報通信材料・機器)



特記事項

東レ

FPD関連フィルム、電子部品関連フィルムや半導体コーティング材料が堅調に推移し、回路材料や液晶カラーフィルターが不振であったものの、増収増益。

国内子会社

前年同期に好調であったIT関連機器子会社の液晶カラーフィルター製造装置等が低調に推移し、減収減益。

海外子会社

韓国子会社のフィルム事業が、昨年増設を実施したフィルム加工品の拡販を進め増収増益。韓国の回路材料事業等が、1～3月にFPDメーカーの生産調整の影響を受けたこと等により、海外全体では増収減益。

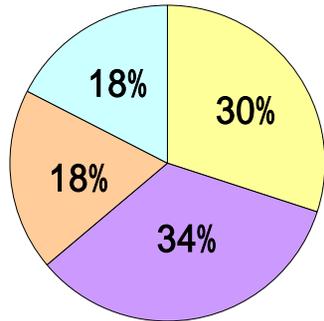
< 主要関係会社 >

国内：東レエンジニアリング、東レフィルム加工 他

海外：TPA(アメリカ)、TPEu(フランス)、TSI(韓国)、STEMCO(韓国) 他

情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

【08年3月期第1四半期サブセグメント別売上高比率】



サブセグメント名



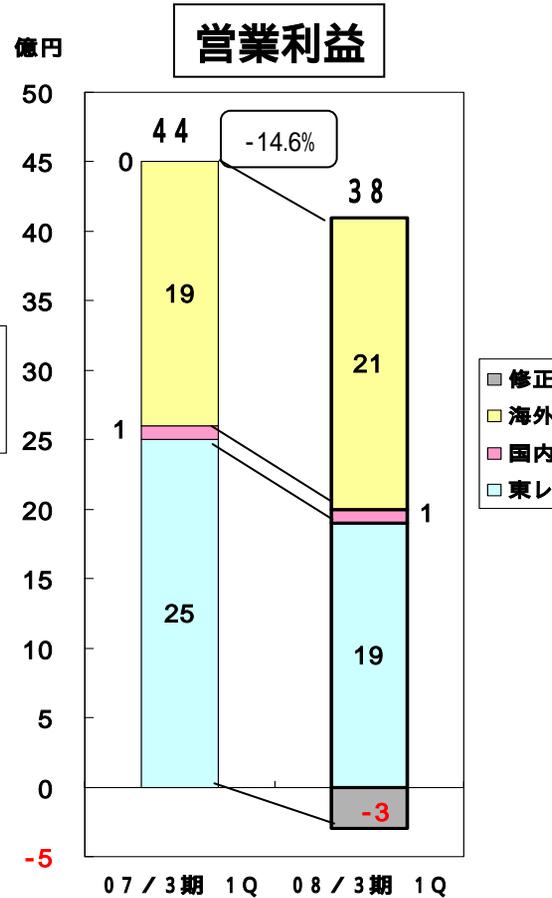
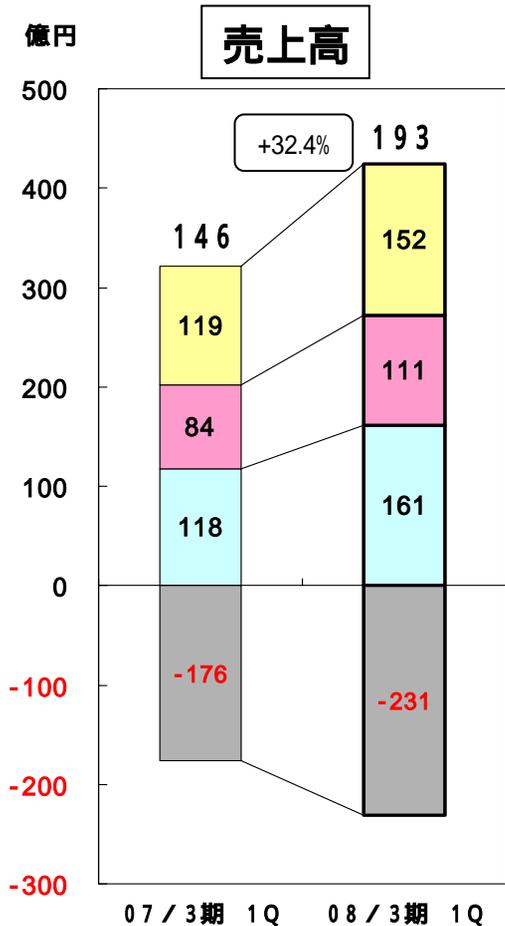
【サブセグメント別売上高推移】

(単位:億円)

サブセグメント	第1四半期計		
	07年3月期 第1四半期	08年3月期 第1四半期	増減率
ディスプレイ材料	154	199	+30%
電子部品・半導体・ 回路材料	205	225	+10%
記録材料	129	122	-5%
機器他	159	117	-26%
情報通信材料・ 機器セグメント合計	646	664	+3%

サブセグメント名	内訳
ディスプレイ材料	光学用フィルム、光学用フィルム加工品、PDPペースト、カラーフィルター、カラーフィルター用ペースト、ケミカル材料、有機EL材料他
電子部品・半導体・回路材料	電子部品・回路用フィルム、FPC用銅張ポリイミドフィルム、TAB用接着テープ、半導体・電子部品用接着シート、半導体コーティング材料、CMPパッド、2層銅張ポリイミドフィルム、TABテープ・COF加工品、樹脂材料、樹脂加工品他
記録材料	磁気材料、TTR (Thermal Transfer Ribbon)・受容紙用フィルム、印刷システム材料他
機器他	液晶スリットコーター、ダイボンディング装置、検査装置、PDP用装置・部品、商社、システム、サービス他

事業セグメント別業績(炭素繊維複合材料)



特記事項

東レ

航空宇宙、スポーツ、産業の各用途が好調に推移し増収となるも、本年1月に稼働開始した愛媛工場増設ラインの減価償却費増の影響等により、減益。

国内子会社

商事子会社が堅調に推移し、増収増益。

海外子会社

欧米とも航空宇宙用途、産業用途が堅調に推移し、米国子会社のB787出荷本格化に伴う立ち上げ費用増があるも、全体では増収増益。

本セグメントでは、日米欧3拠点のグローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。

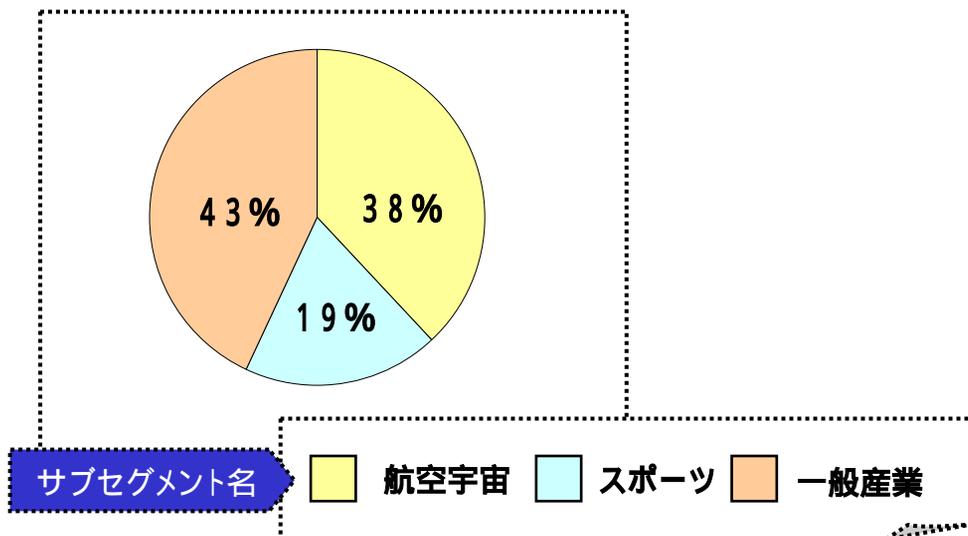
< 主要子会社 >

国内：東レインターナショナル

海外：SOFICAR(フランス)、CFA(アメリカ)、TCA(アメリカ)

炭素繊維複合材料セグメントの売上高の詳細

【08年3月期第1四半期サブセグメント別売上高比率】



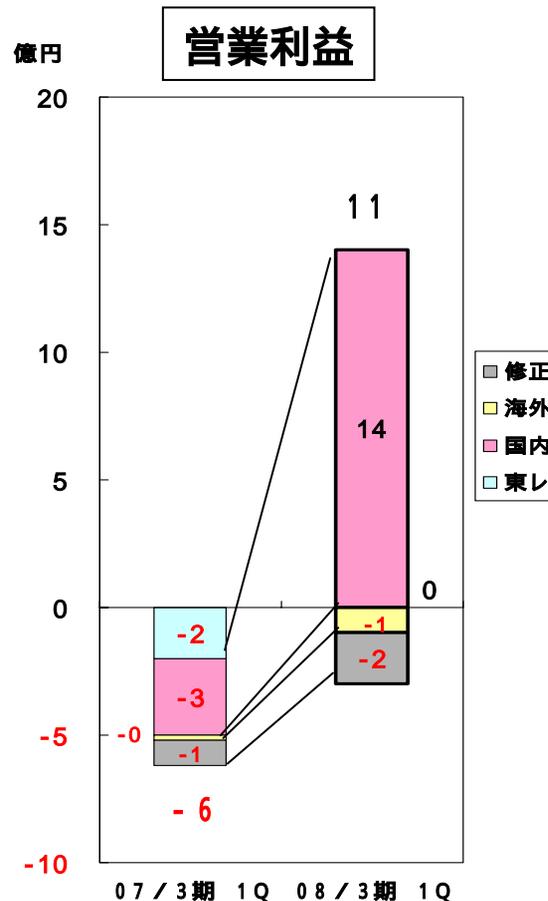
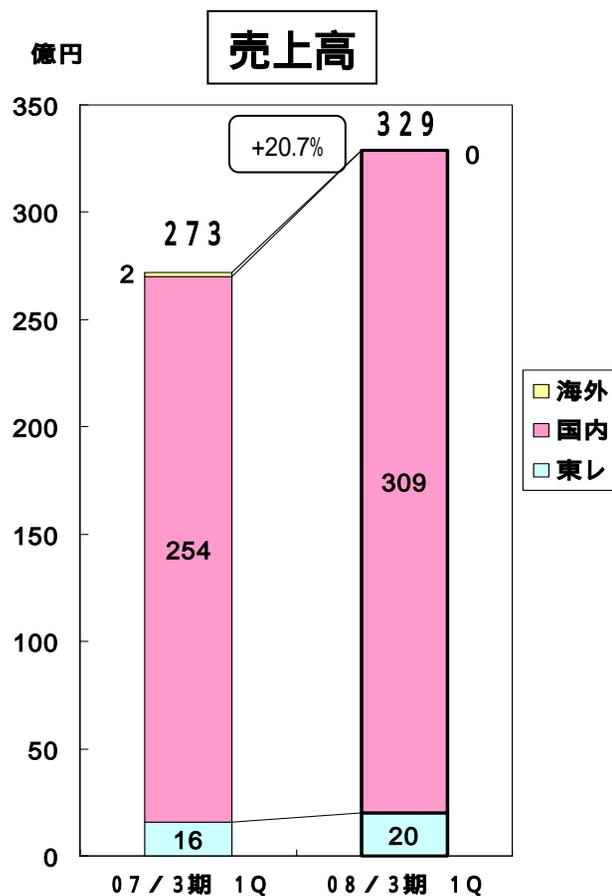
サブセグメント名	用途
航空宇宙	民間航空機 人工衛星 他
スポーツ	ゴルフ 釣り竿 自転車 ラケット 他
一般産業	圧力容器・タンク 自動車 船舶 風車 パソコン用筐体 土木建築 他

【サブセグメント別売上高推移】

(単位: 億円)

サブセグメント	通期		
	07年3月期 第1四半期	08年3月期 第1四半期	増減率
航空宇宙	44	73	+67%
スポーツ	31	37	+22%
一般産業	71	83	+16%
炭素繊維複合材料 セグメント合計	146	193	+32%

事業セグメント別業績(環境・エンジニアリング)



特記事項

東レ

RO膜の輸出が好調に推移したことを主因に、増収、利益改善。
営業利益は若干ながら黒字に転換。

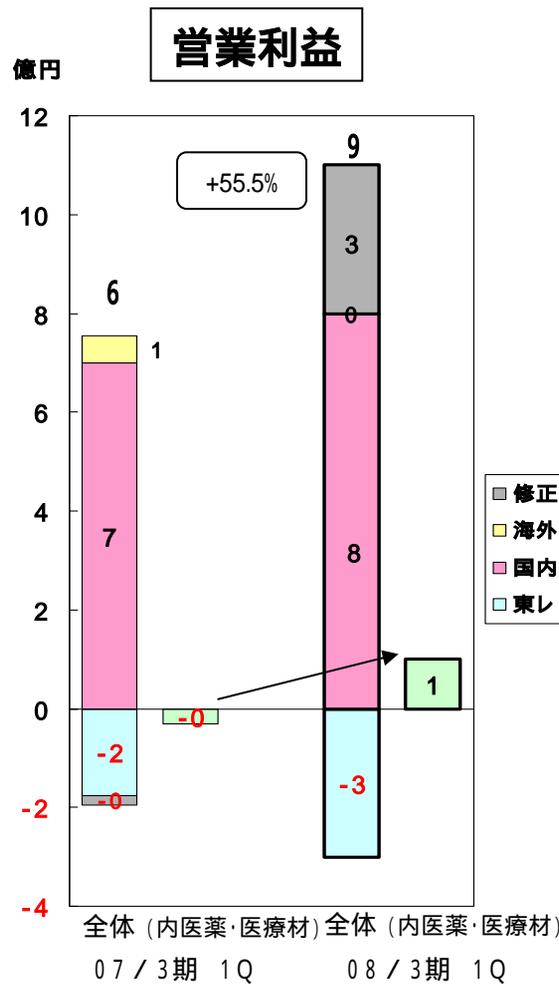
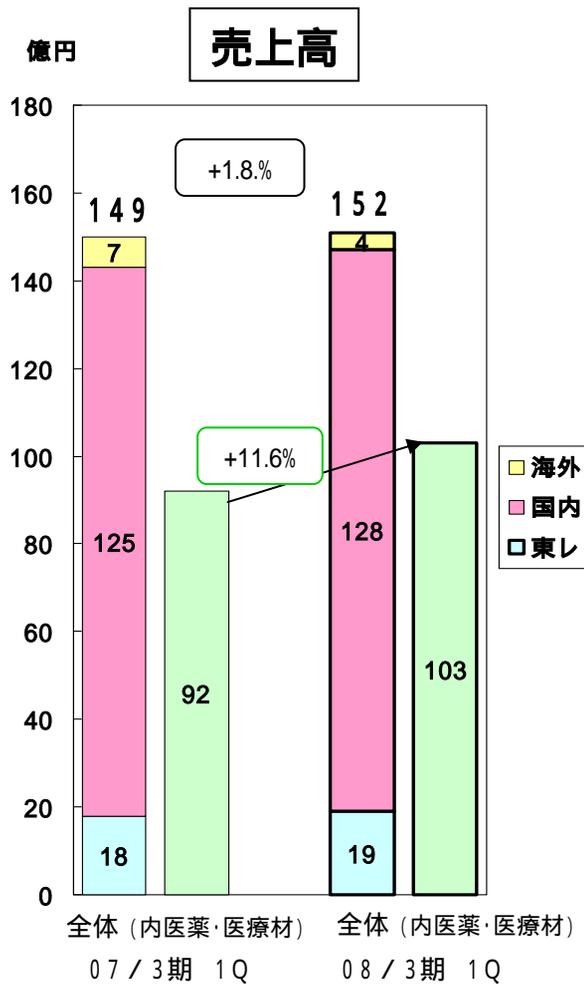
国内子会社

エンジニアリング子会社の工事案件が順調に進捗するとともに、建材子会社の体質強化が進んだこと等を主因に、増収、利益改善。

< 主要子会社 >

国内: 東レ建設、東レエンジニアリング、東レACE、水道機工 他

事業セグメント別業績(ライフサイエンスその他)



特記事項

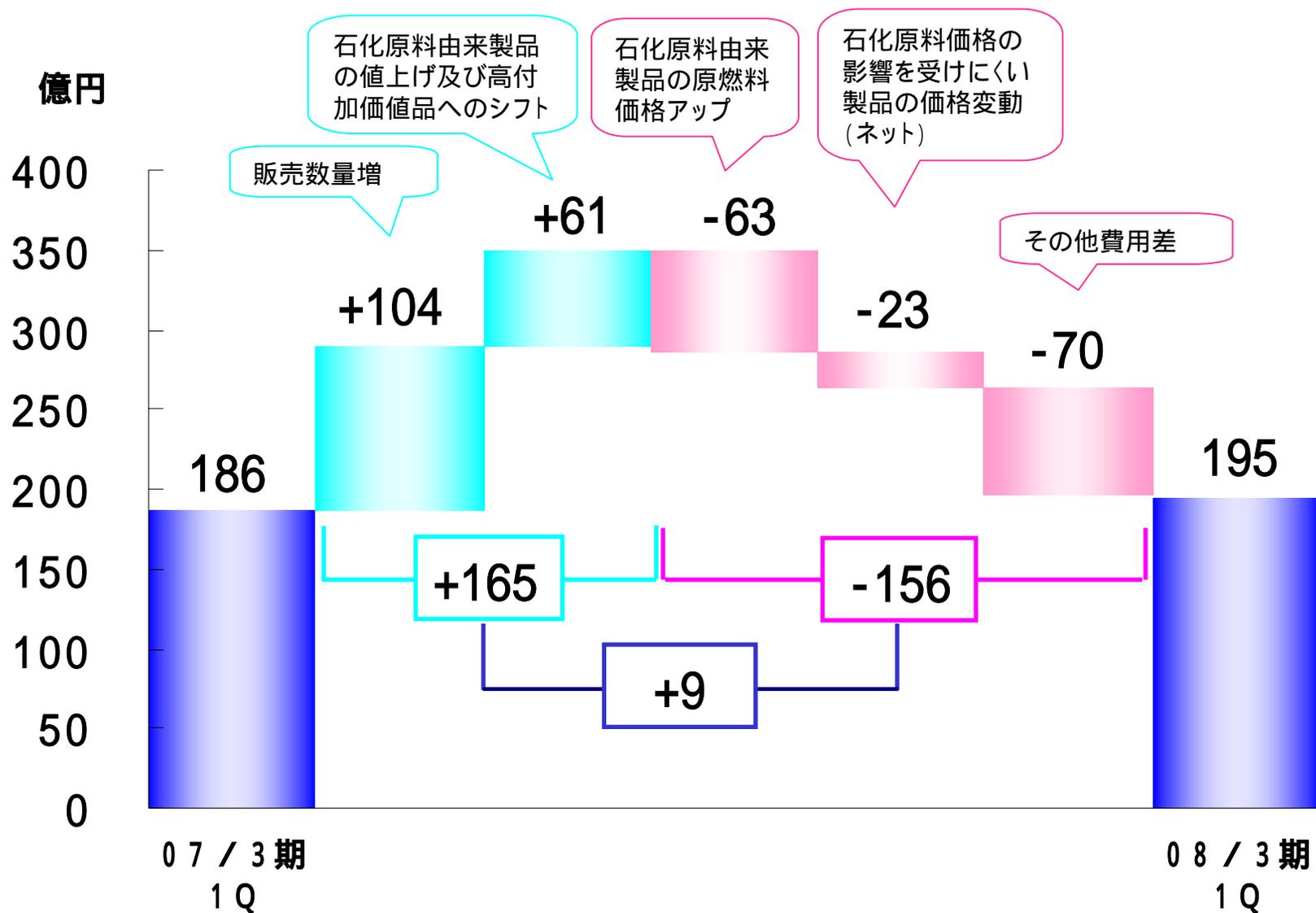
医薬・医療材

医薬・医療材事業は、インターフェロン製剤の効能追加による拡販や人工腎臓新製品の拡販により、増収、利益改善。

< 主要関係会社 >

国内：東レメディカル、東レリサーチセンター、東レインタープライス 他

営業利益増減要因分析



2008年3月期中間期連結業績見通し

単位：億円

	前年同期 実績	今回見通し	増減	期初見通し	ご参考： 減価償却制 度変更前 見通し
売上高	7,462	7,700	+238 (+3.2%)	7,700	7,700
営業利益	429	440	+11 (+2.6%)	440	460
経常利益	405	400	-5 (-1.3%)	400	420
中間純利益	280	220	-60 (-21.6%)	220	230

備考：為替レート的前提は、115円 / US\$

(注) 5月9日に発表した中間期業績見通しは修正していません。
通期の業績予想につきましては、外部環境の動向を踏まえ、
必要であれば中間決算発表時に見直しを行う予定です。

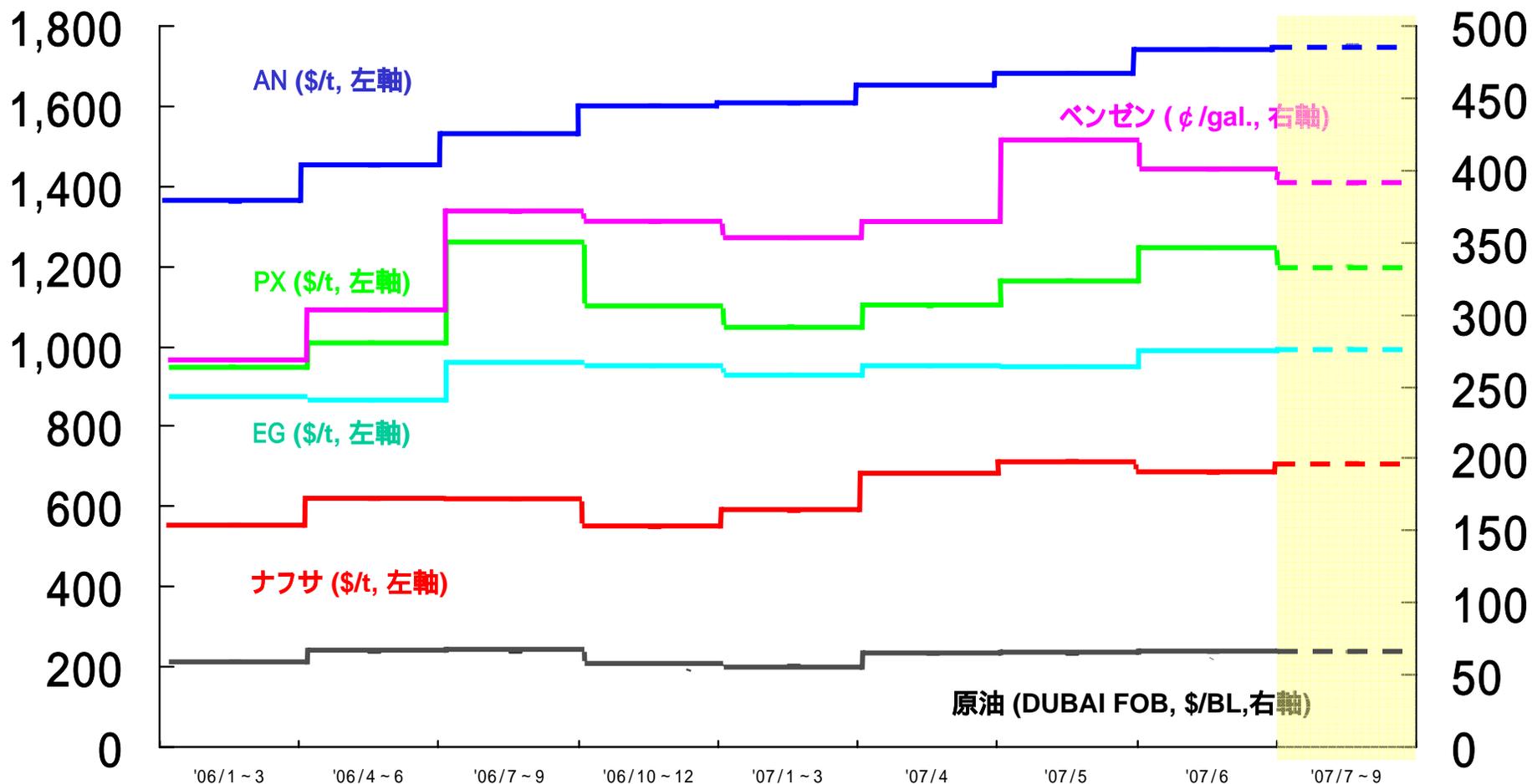
事業セグメント別売上高・営業利益中間期見通し

単位: 億円

	売上高			営業利益			ご参考: 減価償却制度変更前 営業利益		
	前年同期 実績	今回 見通し	増減	前年同期 実績	今回 見通し	増減	前年同期 実績	今回 見通し	増減
繊維	3,018	3,000	-18 (-0.6%)	95	90	-5 (-4.8%)	95	100	+5 (+5.7%)
プラスチック・ケミカル	1,846	1,900	+54 (+2.9%)	87	95	+8 (+9.6%)	87	100	+13 (+15.4%)
情報通信材料・機器	1,278	1,400	+122 (+9.6%)	145	135	-10 (-7.1%)	145	140	-5 (-3.6%)
炭素繊維複合材料	319	400	+81 (+25.4%)	88	90	+2 (+1.8%)	88	90	+2 (+1.8%)
環境・エンジニアリング	678	700	+22 (+3.2%)	1	20	+19 (+1639.1%)	1	20	+19 (+1639.1%)
ライセンスその他	323	300	-23 (-7.1%)	20	20	+0 (+1.9%)	20	20	+0 (+1.9%)
(内医薬・医療材)	200	200	-0 (-0.0%)	6	5	-1 (-17.6%)	6	5	-1 (-17.6%)
消去又は全社				7	10	-3 (-)	7	10	-3
連結	7,462	7,700	+238 (+3.2%)	429	440	+11 (+2.6%)	429	460	+31 (+7.2%)

原料価格の見通し

主要原料の価格は、4～6月に上昇し、7月以降も引き続き高値圏で推移する見込み。





< 参考資料 > 最近のトピックス

植物繊維強化ポリ乳酸(PLA)プラスチックを開発

- 耐熱性と剛性、成形性を向上 用途拡大に期待 -

ポリ乳酸(PLA)とセルロースを主成分とする植物繊維をコンパウンド(混練)して耐熱性と剛性および成形性を向上させた植物繊維強化PLAプラスチックを開発。バイオマスプラスチックで世界最高レベルの150℃の耐熱性を実現するなど、バイオマスプラスチックの物性を抜本的に改良。

既存技術の問題点

- ・植物繊維不均一分散のため成形品外観不良
- ・成形サイクル長く、生産性低い
- ・成形時熱安定性不足による強度低下
- ・成形品耐熱性が不十分

東レのソリューション

- ・独自の均一分散混練技術 (植物繊維を最大50%まで均一混練可能)
- ・PLA結晶化促進技術の開発 (植物繊維を利用した結晶化促進)

開発材料

成形品外観向上

成形時間大幅短縮

剛性、強度が向上

150℃の耐熱性を実現

用途展開

電気・電子部品
自動車部品
土木・建築資材
家具 等



家電スイッチパネル



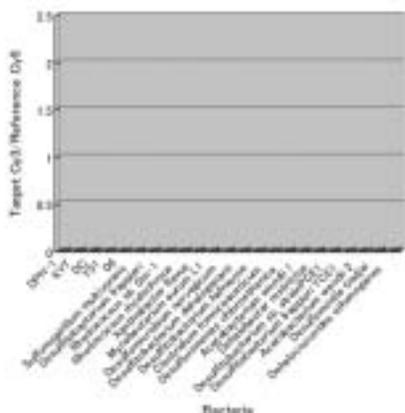
複写機部品

家電・OA部品試作品

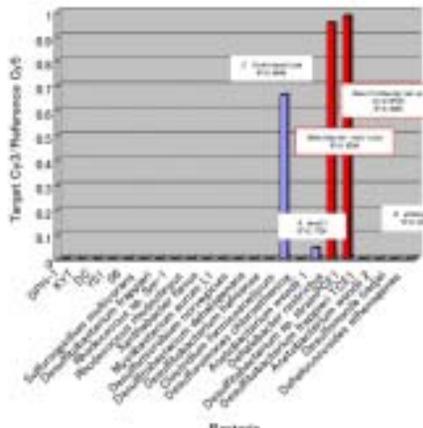


インク容器

松下環境空調エンジニアリング株式会社(MEA)と東レは、東レが開発した超高感度DNAチップ技術と、MEAが国立大学法人岐阜大学、独立行政法人産業技術総合研究所ヒューマンストレスシグナル研究センターと共同開発した土壌・地下水浄化に有効な微生物情報を組み合わせた、汚染物質分解微生物検出用の超高感度DNAチップを開発。



従来のDNAチップではVOC分解微生物は検出できず



東レ製のDNAチップでは複数のVOC分解微生物を検出



従来チップ比約100倍の感度を持つ超高感度DNAチップ
“3D - Gene”

微生物を利用して汚染された環境を修復する「バイオレメディエーション」を有効に

従来の臨床分野に加えて、環境分析や食品分析等、早期の普及が見込まれる非臨床分野で用途拡大を推進

非臨床分野向けのバイオツールビジネスを100億円規模に育成拡大する計画

超高感度DNAチップ“3D - Gene”開発の一部はNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の「バイオ・IT融合機器開発プロジェクト」の助成を受けて取り組んだもの

無色透明アラミドフィルムの開発

- 高耐熱性・高剛性・高寸法安定性を実現 -

世界初となる無色透明のアラミドフィルムを開発。当社独自の高度ポリマー設計技術と精密製膜技術との融合により、300 を超える耐熱性とガラス並みの寸法安定性を実現しつつ、無色透明にすることに成功。

アラミド (芳香族ポリアミド) ・高強度
 ・高耐熱
 ・黄色 一般的に、耐熱性が高くなると着色が大きくなる
 (ポリイミド・PBO 其他の高機能高分子も着色あり)

東レのソリューション

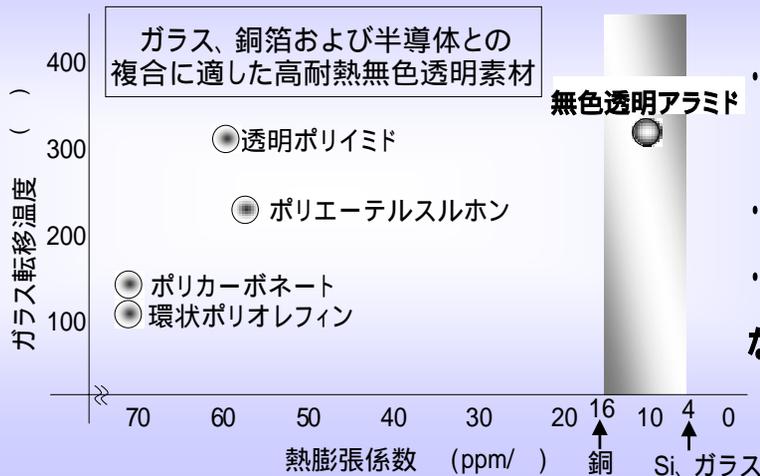
(1) 独自の高度ポリマー設計技術 (2) 精密製膜技術

無色透明アラミドフィルムを開発



開発品

現行品



ガラス、銅箔および半導体との複合に適した高耐熱無色透明素材

無色透明アラミド

- ・ディスプレイ用プラスチック基板等の**光学用途**
- ・光配線基板等の**回路材料用途**
- ・太陽電池等の**エネルギー用途**など、幅広い用途展開を目指す

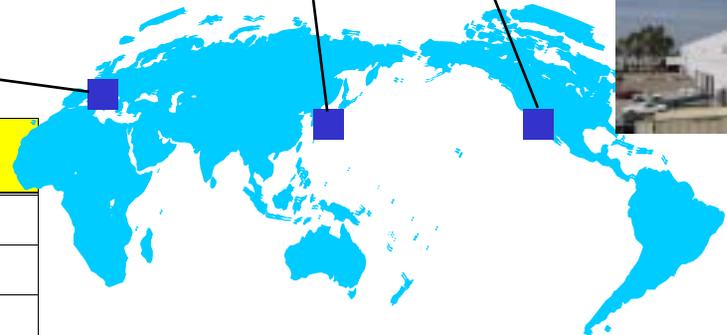
水処理用逆浸透 (RO) 膜およびエレメントの生産能力増強

愛媛工場および米国新会社トーレ・メンブレン・USA (略称: TMUS、所在: カリフォルニア州、東レ100%出資)社において、海水・かん水淡水化プラント、下水再利用プラントや半導体製造工程用の超純水製造装置に使用される逆浸透 (RO) 膜エレメント“ロメンブラ”の生産設備増強に着手。投資額は総額70億円で、生産能力を従来比1.8倍に増強。TMUSは2007年4月から操業を開始し、愛媛工場の新設備は2007年秋の稼働を目指す。

TMEu
RO膜エレメントの販売

愛媛工場
RO膜及びRO膜エレメント
の製造・販売

TMUS
RO膜エレメントの製造・販売



主な東レRO膜エレメント納入プラント実績

No.	国名	設置場所	造水量(m ³ /日 ^(*))	原水別用途	稼働年 ^(*)	備考
1	クウェート	スレピヤ	320,000	下水再利用	2005	
2	アルジェリア	ハンマ	200,000	海水淡水化	(2007)	
3	トリニダード・トバゴ	ポイント・リサ	136,000	海水淡水化	2002	
3	シンガポール	チュアス	136,000	海水淡水化	2005	
5	イラン	ファジール	100,000	かん水淡水化	2001	
6	イスラエル	バルマシム	92,250	海水淡水化	2007	
7	サウジアラビア	アル・ジュベール	90,909	海水淡水化	2000	(*3) 24,240 m ³ /日
8	韓国	大山/現代石化	84,000	かん水淡水化	1997	
9	韓国	大山	80,000	かん水淡水化	2001	
10	スペイン	マヨルカ	69,300	海水淡水化	2001	(*3) 23,100 m ³ /日

2007年秋には、RO膜の年間生産能力を造水量換算で従来の1.8倍にあたる725万m³/日相当まで引き上げ

世界トップレベルの「膜およびその利用技術」をコアとして、膜事業を積極的に推進

(*1) プラント全体の造水能力 (*2) プラント稼働開始年。なおカッコ内は建設中 (*3) 東レの納入しているRO膜分の造水能力

汚れに強いPVDF製新規中空系UF (限外ろ過) 膜モジュールを開発

高度な製膜技術とナノテクの融合により、PVDF (ポリフッ化ビニリデン) 製では世界最小の孔径を持つ中空系UF (限外ろ過) 膜モジュールを開発。汚れ成分による目詰まりを抑制し、凝集剤や洗浄用薬品の使用量を大幅に削減することが可能となり、省エネ・低コスト運転を実現。

上水製造市場における水処理膜

設備規模の増大とともに、**大量処理**、**省エネルギー (低圧) 運転**、**高信頼性運転**が必要。

物理的強度と、洗浄に用いる薬品に対する**化学的耐性**に優れたPVDFが膜素材の主流。

従来のPVDF製中空系膜の問題点

河口、湖沼等、汚れ成分(濁質・有機物)の含有量が多い場合、

- (1) **孔径を小さくするのが難しく、膜が目詰まり(膜ファウリング)**し、水処理量が減る。
- (2) 目詰まり除去のため**薬品洗浄頻度が増え、運転コストが増大**。



ファウリング除去のため、**薬品洗浄が必要**

ファウリング物質“蓄積”

ファウリング物質“残存”

開発品

PVDFの中空系膜で**世界最小の孔径 (約10nm、従来は20nmが最小)**を持つ複合中空系膜を開発。

高透水性と高強度を両立しつつ、**汚れ物質の膜内部への侵入を抑制**し、膜表面から汚れ物質を**物理洗浄**で容易に剥離可能。



PVDF製中空系UF膜モジュール

飲料水・産業用水製造に加え、**下水再利用・海水淡水化RO膜前処理**にも適用可能。

本資料中の2008年3月期中間期の業績見通し、及び事業計画・将来展望についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。